

有峰の蝶類 今昔

令和5年3月25日

有峰は、富山県の東南部に位置する標高1100～1300mの高原盆地で、その大部分がミズナラ、ブナを主とした夏緑樹林帯であり過去の調査記録によると、有峰の蝶類は、県内で知られる蝶の4/5、100種が記録され、蝶類の良好な生息地となっている。

有峰での一番大きな出来事として有峰ダムが昭和35年(1960年)に完工した。残念ながら有峰ダム完成前の蝶類の記録は少なく前田英雄編「有峰の記憶」に記録が残っている。「湖底に沈む前の昆虫調査を行って」と題し、有峰ダムが完成する前の昭和31年(1956年)に大野豊氏が仲間5人と旧有峰盆地において昆虫調査を行い、その結果を回想録として蝶類の記録が掲載されている。この寄稿文は、有峰ダムの完成により湖底に沈んでしまった旧有峰盆地に生息していた蝶類の貴重な観察記録といえる。昆虫調査を実施した昭和31年当時、旧有峰盆地にはシラカバ林が広がり、草原と湿地があちこちに点在した別天地であったこと、草原にはクガイソウがムラサキ色の花房を垂れて咲いており、花にはコヒョウモンモドキが群がっていたこと、珍しいキバネセセリ、ウラゴマダラシジミやコヒョウモン、コヒョウモンモドキ、ヒメシジミが無数に飛んでいたことなどが記載されている。この寄稿文に記載されている蝶類はタテハチョウ科2種:コヒョウモンモドキとコヒョウモン、シジミチョウ科10種:ウラクロシジミ、ウラキンシジミ、ウラゴマダラシジミ、ウラミスシジミ(ダイセンシジミ)、ウスイロオナガシジミ、エゾミドリシジミ、ムモンアカシジミ、ヒメシジミ、カラスシジミとミヤマカラスシジミとセセリチョウ科のキバネセセリの合計13種である。

蝶は自然環境の変化には敏感であり、有峰ダム完成以降、この13種の蝶の中には絶滅の危機に瀕している蝶もいる。それまでの採集記録や最近(2021年及び2022年)の生態観察調査記録などの知見も加味し、「有峰の蝶 今昔」として、この13種の蝶について、この蝶達の現状について報告する。

有峰ダム建設前、昭和20年代の和田川を含んだ旧有峰盆地の原風景写真と2020年10月、渇水期で有峰湖半が露出した記録写真とを対比した。当時の旧有峰盆地の写真は貴重な資料(富山県森林政策課有峰森林文化村係蔵)と言える。先に引用した前田英雄編「有峰の記憶」表紙と本文中に掲載のクガイソウに吸蜜するコヒョウモンモドキ(昭和31年7月撮影)の写真を紹介する。始めに当時の旧有峰盆地に分布し、現在絶滅の危機に瀕しているコヒョウモンモドキにフォーカスした。



有峰の記憶/前田英雄編



クガイソウに吸蜜するコヒョウモンモドキ
クガイソウに吸蜜中のコヒョウモンモドキ
(昭和31年7月旧有峰盆地にて撮影)
有峰の記憶164ppから抜粋



コヒョウモンモドキの展翅標本
(長野県開田高原産 霜鳥所蔵)



コヒョウモンモドキの食草
クガイソウ
東谷(2021年7月撮影)



旧有峰盆地和田川本流の風景
(昭和20年代秋撮影)



旧有峰盆地和田川本流の風景
(昭和20年代秋撮影)



西谷遠望
(昭和20年代秋撮影)



渇水期に露出した有峰湖畔の風景
(旧有峰盆地和田川の氾濫原?)
(2021年10月1日西谷宝来島周辺で撮影)

表1に有峰の蝶13種 今昔リストを示し、各蝶種の特長を概説した。リストで紹介した全種ではないが、生態写真や展翅標本(県外採集個体)写真を掲載した。

【タテハチョウ科】

・コヒョウモンモドキ: 食餌植物はゴマノハグサ科のクガイソウである。クガイソウは西岸線、小口川線、東谷線沿いの草地で所々見られるが、1956年以降、再確認の記録はない。富山県では、絶滅のおそれある野生生物 レッドブックとやま2012年絶滅危惧 I 類で登録されている希少種である。

コヒョウモン: バラ科のオニシモツケが主な食餌植物であり、有峰にも西谷や東谷の溪流沿いや祐延ダム付近に点在し生育している。2011年祐延ダム周辺で発生を確認しているが、近年再確認の記録は少ない。

【シジミチョウ科】

- ・ウラクロシジミ:マンサク科のマルバマンサク、マンサクが主な食餌植物であり、有峰にも分布している。成虫の出現時期は7月下旬から8月上旬で、冷タ谷、猪根谷、穴洞谷、砥谷半島や東谷で午後3時頃から活発に活動する様子が観察できる。2021年及び2022年7月下旬成虫の生息を確認した。
- ・ウラキンシジミ:モクレン科のトネリコ、ホソバアオダモなどが食樹植物である。ダム完成前、1980年代、1990年代の採集記録はある。2021年7月下旬、西谷でその発生を確認した。
- ・ウラゴマダラシジミ:食餌植物はモクセイ科のイボタ、ミヤマイボタで、有峰にも生育する。有峰での成虫の出現時期は7月中旬から下旬が中心である。2021年、2022年に東谷で成虫の発生を確認した。
- ・ウラミスシジミ:食餌植物はブナ科のミズナラである。成虫の発生は7月～8月上旬とされている。1956年、1980年及び1990年での採集記録以降、再確認の記録はない。
- ・ウスイロオナガシジミ:食餌植物はブナ科のミズナラである。2021年東谷にて成虫の生息を確認した。
- ・ムモンアカシジミ:幼虫は初期にブナ科のミズナラなどを食し、その後はアブラムシなどの半肉食性。成虫は8月上旬より現れ、9月にもみられる。1956年、1980年代、1990年代での採集記録の他、2008年8月東谷にて成虫の発生を確認以降、最近での再確認の記録は少ない。
- ・ヒメシジミ:食餌植物は、キク科のオオヨモギ、タデ科のオオイタドリ、ヤナギ類、カバノキ類などである。有峰では6月下旬から7月下旬、猪根平、折立や祐延などのやや開けた草原で確認・観察できる。クロヘリ型、クロテン型などの翅表の個体変異がみられる。
- ・エゾミドリシジミ:食餌植物はブナ科のミズナラである。成虫は7月中旬ごろから発生する。2021年7月西谷線の冷タ谷で飛翔する雄姿を観察、発生を確認した。ゼフィルス類では最も個体数の多いジョウザンミドリシジミと比較し、個体数・目撃頻度は明らかに少ない。
- ・カラスシジミ:食餌植物はハルニレで、有峰では東谷などに分布する。ダム完成前の1956年、旧有峰盆地で多産していたが、卵が発見された1970年代以降は再確認されていない。準絶滅危惧種
- ・ミヤマカラスシジミ:食餌植物はクロウメモドキで、西岸線、南岸線や東谷線沿いに分布する。

【セセリチョウ科】

- ・キバネセセリ:食餌植物はウコギ科のハリギリである。成虫は7月中旬から8月にかけて現れ、♂は吸水性が強く、獣糞で吸汁する雄姿も観察される。2021年及び2022年7月西岸線の冷タ谷や砥谷半島遊歩道、折立で成虫の発生を確認した。

「有峰の記憶」大野豊氏の寄稿文を拝読し、有峰ダム完成前の旧有峰盆地、和田川沿いには、コヒョウモンモドキの食草クガイソウやコヒョウモンの食草オニシモツケが繁茂し、コヒョウモンモドキやコヒョウモンが乱舞していた情景が回想される。この2年間両種も含め、ウラミスシジミ、ムモンアカシジミ、カラスシジミ、ミヤマカラスシジミの再確認・再発見には至らなかった。コヒョウモンモドキは絶滅危惧Ⅰ類、カラスシジミとミヤマカラスシジミは準絶滅危惧種に指定されており、絶滅が危惧されている。コヒョウモンモドキは、有峰湖に近い岐阜県側にはまだ生息地が残っている。有峰湖畔ばかりでなく、有峰県立自然公園内での復活・再発見を願っている。

引用文献

- 富山市科学文化センター,有峰の昆虫類,1996,常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査 富山市科学文化センター
- 富山市科学文化センター,2006,研究報告第29号
- 前田英雄編 有峰の記憶/桂書房
- 富山市科学文化センター とやまと自然 有峰特集 第19巻 秋の号 1996
- 富山市科学博物館とやまサイエンストピックス No.511 富山県で最も絶滅に近いチョウ・コヒョウモンモドキ
- 日本チョウフィールドガイド類保全協会編 フィールドガイド 日本のチョウ/誠文堂出版社
- 蛭川憲男著 日本のチョウ 成虫・幼虫図鑑/メイツ出版

表1 有峰の蝶13種 今昔リスト

科名	種名	1956年	1970年代	1980年代	2021年	2022年
タテハチョウ	コヒョウモンモドキ	○				
	コヒョウモン	○	○			
シジミチョウ	ウラクロシジミ	○	○		○	○
	ウラキンシジミ	○			○	
	ウラゴマダラシジミ	○	○		○	○
	ウラミスシジミ(ダイセンシジミ)	○				
	ウスイロオナガシジミ	○		○	○	
	エゾミドリシジミ	○	○	○	○	
	ムモンアカシジミ	○		○		
	ヒメシジミ	○	○		○	○
	カラスシジミ	○		○		
ミヤマカラスシジミ	○	○(卵)				
セセリチョウ	キバネセセリ	○			○	○



コヒョウモン
(祐延ダム付近 2011年7月撮影)



コヒョウモンの展翅標本
(長野県開田高原産 霜鳥所蔵)



ウラクロシジミの展翅標本
(埼玉県秩父産 霜鳥所蔵)



ウラキンシジミの展翅標本
(神奈川県津久井産 霜鳥所蔵)



ウラゴマダラシジミ♂(左) ♀(右)の展翅標本
(群馬県桐生市産 霜鳥所蔵)



ウスイロオナガシジミ♂
(東谷2021年7月撮影)



エゾミドリシジミ♂の展翅標本
(岩手県大船渡市産 霜鳥所蔵)



ムモンアカシジミ♂
(東谷2008年8月撮影)



ヒメシジミ交尾体(左上♀右下♂)
(猪根平2021年6月撮影)



クロヘリ型のヒメシジミ♂
(猪根平2021年6月撮影)



ミヤマカラスシジミ?
(医王山2014年7月撮影)



ミヤマカラスシジミ♂の裏展翅標本
(長野県丸子町産 霜鳥所蔵)



キバネセセリ♂
(冷夕谷2022年7月撮影)



カラスシジミ♂の裏展翅標本
(長野県安曇野産 霜鳥所蔵)